

Contents

- P.1 《巻頭言》 日本顎顔面インプラント学会 理事長 嶋田 淳
- P.3 《学会運営の現状》 日本顎顔面インプラント学会 常任理事 藤井俊治
- P.4 《各種委員会報告》 専門医制度委員会、専門医資格認定審査会、研修施設資格認定審査会、総務広報委員会
定款(会則)検討委員会、財務委員会、雑誌編集委員会、用字用語委員会、渉外委員会、教育研修委員会、学術委員会
倫理委員会、医療・情報管理委員会、薬剤関連調査委員会、社会保険委員会、脱タバコ社会実現委員会
研修カリキュラム委員会、賛助会員制度促進委員会、診療ガイドライン作成委員会、広告のできる専門医推進委員会
診療マニュアル作成委員会、共同研究委員会(日本顎顔面補綴学会)
- P.13 《総会・学術大会の報告》
第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
- P.14 《総会・学術大会のご案内》
第29回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
- P.15 第30回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
- P.16 《日本顎顔面インプラント学会 常置委員会》
- P.17 《2025年、2026年 インプラント関連学会案内》
- P.18 《研修施設紹介》
①総合南東北病院医療クリニック 顎顔面インプラントセンター
- P.19 ②日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科
- P.20 ③秋田大学 附属病院 歯科口腔外科
- P.21 ④名古屋大学医学部附属病院 歯科口腔外科
- P.22 《会員情報》
《事務局からのお願い》
- P.23 《日本顎顔面インプラント学会編纂書籍》
- P.24 《編集後記》

《巻頭言》公益社団法人日本顎顔面インプラント学会のこの先

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 理事長 嶋田 淳

例年通りとは様変わりの梅雨と猛暑の夏が混在し、健康管理が困難な令和7年の7月をむかえておりますが、日本顎顔面インプラント学会の会員の皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じ上げます。ニュースレターの発刊にあたり理事長として、学会の活動の現況ならびに今後の行動目標について私案を述べさせていただきます。ご一読いただきました会員の先生にはご意見を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は乙巳で、645年の乙巳の変以来、政変や大きな社会的変革が起きる年として語られてきました。それを起点として齎される結果が民にとって有益か不利益かは後の歴史によって判断されてきました。公益社団法人日本顎顔面インプラント学会と公益社団法人日本口腔イン

プラント学会との共同で進めてきた所謂広告可能な仮称インプラント歯科専門医につきましては、長期にわたる話し合いを続けており、ご心配をお掛けして参りましたが、このほど、口腔インプラント学会の多大なご協力とご理解を賜り、また本会の矢島、藤井の両常任理事の獅子奮迅の活躍の結果、さらに福田仁一元日本口腔外科学会理事長の的確なサポートを得て、著しい進展をみるに至りました。順調に行きますと今年度中には日本歯科専門医機構による審査が完了し、インプラントに関する広告可能な専門医が認定されるのではと期待しております。なお先月の専門医機構からの通達で従来(仮称)インプラント歯科



専門医とされてきたものが、正式に今後は日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医として定義されました。インプラント歯科専門医の名称については異論もあると思われれます。特に‘歯科’と称していることについて、‘口腔’より範囲が狭く広範囲支持型装置等を包含する用語としては範囲が狭く不適切ではないかと思われる場合もあるかと思えます。これはまだ専門医機構ができる前、口腔インプラント学会と顎顔面インプラント学会が合同の委員会を開催し広告可能な専門医の制度について相談している時に、当時の口腔インプラント学会の理事長の宮崎 隆先生から「インプラント歯科専門医」と呼称しようとの発案があり、やはり異論が噴出したが、これに対して同じく当時の顎顔面インプラント学会の理事長の瀬戸 皖一先生から‘歯科’という用語の定義は‘医科・歯科’二元論における‘歯科’を指すのであり、歯は勿論、口腔や顎顔面をも包含するものであり、非常に幅広い領域をさす言葉である、との発言があり、一同「インプラント歯科専門医」と提唱することで合意したと記憶しています。広告可能な専門医が今後正式に「インプラント歯科専門医」として承認される運びとなり、これは両学会の患者から信頼される専門医療を提供できる歯科医師を育成していこうという熱意が結実した結果得られた成果であり、また今更ながらではあるが、専門医機構の制度設計の基本方針によっても、各学会認定専門医の名称は、国民の理解を得やすいようある程度整理し、と規定されており、的を射た名称を当初から選択していたことになり、両先生の英知に感服せざるを得ません。「インプラント歯科専門医」が広告可能な専門として認定されれば、この領域が口腔外科や麻酔や小児歯科や歯周病などと異なり所謂自由診療中心の医業であり、これは保険診療を対象とすると考えられてきた専門医において特異な例となり、まさしく歯科界における‘乙巳の変’となる歴史的転換点であるかもしれません。

従来5領域に加えて新たな5領域で広告可能な専門医が認定された、あるいはされることの意義は、今後歯科界における教育環境の大きな変革がなされていくためのひとつのきっかけ、あるいはスタートポイントになると考えております。問答無用に医師・歯科医師には生涯研鑽の義務

が課せられております。これまで任意の学術団体によって担われていた「専門医」の育成は、厚生労働省が認可する広告可能となることによって、その育成のための教育はより厳格かつ公正に、またシステムティックに実施されることが必須となります。そのため今後歯科医師個人は、卒前教育、OSCE・CBT、臨床実習、卒後臨床研修、生涯研修の一連の過程の中で、必ず専門性を身につけ患者に専門性の高い歯科医療を提供していくことが当たり前に求められるようになるでしょう。この専門医の教育育成に於いては研修施設の存在、特に歯科大学、病院歯科、開業医などがOJTに重要な役割を果たすこととなります。大学あるいは病院歯科の研修施設が多い顎顔面インプラント学会においては、今後さらに卒後の研修体制の充実が求められるようになると考えられますので、いまから学会内に専門教育のための委員会（例えば、専門医教育育成委員会など）を立ち上げ、専門医教育のための方略やコンテンツ、評価方法などを集積し共有しあうことが必要と考えます。その際には本学会が先に発刊した成書なども参考になるかと思えます。

また以前理事会において学術委員会にお願いいただきましたが、日本における大学でのインプラント教育の実態について学会として調査を行い、その結果を学部教育に反映させ、専門医の教育とシームレスに連携させる必要があると考えます。

以上インプラント歯科専門医に関わる今後の展開について私見を述べさせていただきました。会員諸氏からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

《学会運営の現状》日本顎顔面インプラント学会に与えられた使命

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会
常任理事 藤井俊治

日本顎顔面インプラント学会は会員の9割が口腔外科学に関連する大学関係者ではないかと思われる。そのため研究や講演のほとんどがインプラントの埋入や外科的問題事例等の口腔外科に特化した内容をテーマとした学会として発展してきた。

従来口腔外科からさらに一歩進んで、外科の分野からインプラントについて探求し、口腔外科のサブスペシャリティーとしてインプラントに携わることは素晴らしいことである。しかし、日本顎顔面インプラント学会はインプラント学会と名乗っているが、本当はインプラントにおける外科的応用に偏りすぎていないだろうか、即ちインプラントの埋入と同じ数だけ補綴やメンテナンスの患者の治療に当たってきたのであろうか、あるいはインプラントの外科的分野以外に関しても造詣深く探求してきたのだろうか、日本顎顔面インプラント学会はインプラントの外科分野を担う学会であるといことは紛れもない事実である。何を今更、と思う会員もおられるだろうが、現在学会が目指している日本歯科専門医機構のインプラント歯科専門医はインプラントの外科のみならず補綴やメンテナンス分野にも一定の知識と技術を身につけた歯科医師を対象とした制度である。スタートすればインプラントの口腔外科分野に特化しているだけでなく、インプラント治療に関連する補綴やメンテナンス等の知識と経験も今まで以上に要求される制度となる。

一方でインプラント歯科専門医制度は何も補綴やメンテナンスに特化したインプラントロジストを育成しようとしているわけではない。補綴やメンテナンスのエキスパートはその分野の歯科医師に委ねるとして、我々はインプラント歯科専門医を目指す以上はインプラント治療に関わるどの分野でも一定の知識と技術を身につけていなければならないのである。幸い口腔外科系の講座、教室、診療科に所属している歯科医師が多い日本顎顔面インプラント学会の会員は、インプラント治療を行うのに相応しい診療室、手術室を有した施設で治療に従事している歯科医師が多い。

その多くが専門医を教育、研修する研修施設、准研修施設に適した環境の診療室で診療しているということである。欠落しているのは、インプラント治療全般の知識と経験である。

インプラント歯科専門医制度のスタートはインプラントでお悩みの患者さんがどこに受診してよいのか困らないための技能開示であったはずである。その中には新しくインプラントの埋入から治療を受ける患者だけでなく、既に他院でインプラント治療を受けた後、何らかのトラブルを生じ、インプラント問題事例として入院を余儀なくされる事例もあり、その際には口腔外科学の知識、技能に卓越し、外科設備が整った診療室、手術室を有する先生方の協力が必須である。

昨年は福岡歯科大学の主幹で日本顎顔面補綴学会と合同で学術大会が開催された。インプラントに関連する補綴を学ぶ良い機会であった。来年はどちらも日本歯科大学生命歯学部での開催である。同時開催に至らなかったが、今後も機会ある毎に連携して、お互いの知識と経験を高め合い、日本顎顔面インプラント学会の会員がインプラント治療全般の専門医として患者に信頼されるインプラントロジストを育成できる学会へと発展していくことを切に願っている。



《 各種委員会報告 》

専門医制度委員会報告

委員長 加藤仁夫

今年度の常置委員会の委員は若返りを図るためにメンバーの一新を考えましたが、「日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医」制度発足の途中であることから一部のメンバーの入れ替えだけになりました。委員長に加藤仁夫委員、副委員長に筋生田整治委員、藤井俊治委員、矢島安朝委員、小倉晋委員、河奈裕正委員および立川敬子委員は再任、高野裕史委員と廣安一彦委員が新しく加わり9名で構成されています。また長年専門医制度委員長を務めていただいた高森等先生にアドバイザーとして就いていただきました。

2025年4月1日現在、日本顎顔面インプラント学会認定研修施設数は105施設、認定准研修施設数は27施設、専門医数は168名、指導医数は196名です。

〔認定専門医筆記・口述試験、専門医特別試験〕

今年度の日本顎顔面インプラント学会認定専門医、ならびに専門医特別試験は2026年2月～3月に予定しておりますので、受験予定者は準備を始めてください。なお日程ならびに申請書等につきましてはホームページの「専門医制度」ならびに「お知らせ」の欄に掲載しますのでご覧ください。

〔認定専門医、認定指導医、認定研修施設等の更新申請〕

2026年4月1日更新の認定指導医、認定専門医、認定研修施設、認定准研修施設の申請につきましては専門医と指導医の更新時期の統一化など更新申請時期の見直しにおいて若干の変更がありました。新制度の移行期にあたるここ数年間は特に指導医をお持ちの先生におかれましては複雑な更新申請になりますので、ホームページを熟読のうえ対応をお願い申し上げます。

更新再審査ならびに更新保留者の多くは教育研修会参加回数の不足です。近々5年間に2回以上の参加が義務付けられていますが、開催が年に1回のこともあり、気が付いた時にはすでに終わってしまったとのことでした。今年度の教育研修会は2025年8月24日(日)にWEB開催です。更新時期でない方も参加をお願いします。

各種申請書の書式変更ならびに他学会同様に書面と電子媒体の併用申請になっておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

〔日本顎顔面インプラント学会専門医認定特別試験〕

本学会創設当初に指導医(暫定指導医)になられた方の中には年齢制限などのために専門医を未取得の方が多数おられます。そのため2023年度から3年間にわたり専門医認定特別試験を実施してきましたが、2026年4月の認定が最後の年になりました。申請期間など詳しくはホームページをご覧ください。なお、今年指導医更新の方も専門医特別試験を受験できますが、指導医の更新を済ませる必要があります。日程の都合で学術大会参加回数と研修会参加回数にご注意ください。

〔暫定指導医申請について〕

常勤の指導医が定年退職した場合に研修施設継続のために暫定指導医制度がありますが、日本歯科専門医機構認定歯科インプラント専門医制度を見据えて、内規の改訂がありました。大きな変更点は申請資格と症例数です。従来の内規では日本口腔外科学会の指導医・専門医には症例数などに優遇措置がありましたが、新内規では日本口腔インプラント学会、日本歯科補綴学会、日本歯周病学会など口腔インプラントに関係する指導医・専門医も対象になります。なお、ここ2年間は従来の内規との併用期間ですので、ご自身の判断で選択してください。暫定指導医申請は随時受け付けていますし、専門医特別試験の申請時期に間に合えば専門医特別試験の受験資格も得られます。詳しくはホームページをご覧ください。

〔今後の日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医制度について〕

いまだ未定の部分がありますが、日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医制度について日本歯科専門医機構、日本口腔インプラント学会および本学会との協議が最終段階に来ており、今年度中の成立を目指しています。それに伴い今後本学会の規則等の改訂がありますのでご注視ください。

現在までに協議して合意していることは①現存の研修施設であっても、条件を満たさない研修機関は准研修施設として登録する。②研修施設および准研修施設においても常勤の認定指導医が在籍していなければならない。③指導医は日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医でなければならない。④日本歯科専門医機構認定インプラント専門医取得には研修施設において常勤で診療に従事していなければならない。

専門医資格認定審査会報告

委員長 福田雅幸

【2025年4月1日認定の専門医試験結果について】

専門医資格認定審査会では、今回は7名の専門医新規申請者に対して書類審査を行い、書類審査合格者6名に対して2025年2月11日に筆記および口述試験を行いました。また、同月23日には専門医認定特別試験に申請のあった15名中14名に口述試験を行い、いずれも全員が合格した旨を専門医制度委員会に上程しました。筆記および口述試験では、本学会編の「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」と「顎骨再建とインプラントによる治療指針」から本学会専門医が熟知していなければならない事項について問いますので、準備をして試験に臨んでください。

本学会認定専門医取得のためには、インプラント治療に関する経験が30症例以上必要で、その他骨造成手術や全身管理に関する報告、論文や学会での発表などの業績が必要です。残念ながら、毎年多くの申請書類に不備があります。分からない点をご質問をお受けしますが、最新の申請要綱、専門医制度規則、専門医制度施行細則を熟読のうえ、余裕をもって申請書類をお送りください。

研修施設資格認定審査会報告

委員長 日比英晴

副委員長の栗田 浩先生、委員の長尾 徹先生、柳井智恵先生、代田達夫先生、村田 勝先生の構成で運営しています。本年度の申請は研修施設、准研修施設に各1件がありました。資格認定審査の結果は専門医制度委員会に答申いたしました。なお准研修施設の申請資格は、本学会指導医または専門医が1名以上常勤し十分な指導体制がとられていることを要する（専門医制度規則）、准研修施設の施設長は他の准研修施設長と重複はできない（内規）とされていますのでご注意ください。

総務広報委員会報告

委員長 矢郷 香

本年度から総務広報委員会委員長は、長年委員長をお務めいただいた又賀 泉先生から交代し矢郷 香が拝命いたしました。又賀先生には総務広報委員会の仕事を1から教えていただき感謝申し上げます。円滑な学会運営のために引き続きご指導賜りたく委員を継続していただきました。副委員長は筋生田 整治先生、委員として又賀 泉先生、石垣佳希先生、宮本郁也先生、丸川恵理子先生、木津康博先生、新しく臼田 慎先生、作山 葵先生にお願いし9名で活動いたします。私が委員長で恐縮ですが、若返

りを図り更に学会を発展させていくという執行部の意向を組み構成されました。

本委員会の業務は、総務の役割として常任理事会、理事会、常置委員会、運営審議委員会および事務局との相互情報を図ること。また、本学会の理念や活動内容を広く周知し、会員間の情報共有や連携を深めることを目的にさまざまな広報活動を展開しております。その一環として、ウェブサイトの充実とニューズレターの発行を行い、会員に適時情報を伝達しております。デジタル人間の会員が増えているかと思しますので、ITに強い若手委員の協力の下、今後は、学会の活動がより分かりやすく、親しみやすい形で伝わるようウェブサイトやSNSを通じた情報発信の強化にも取り組んでいきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症は落ち着きましたが、現時点ではまだ理事会や委員会はオンライン形式で開催されています。zoom会議に慣れ、遠方の委員も東京に出張する必要がなく勤務先や自宅から参加でき、学会としても交通費や宿泊費の経費削減となるメリットが大きいです。ただし、総会の決議等はface to faceでの採決が重要なため、今年島根で開催される第29回日本顎顔面インプラント学会総会は現地参集予定ですのでよろしくごお願い申し上げます。

今回11号は臼田 慎先生が原稿収集と編集を行ってくれました。9号より学術誌に挟み込む紙媒体だけではなく、ニューズレターを電子化してウェブサイトに掲載する「メールニューズレター」を発行することになりました。ウェブ版は今年8月に掲載されましたのでウェブサイトをご確認ください。

日々進化する情報環境の中でより多くの方々、会員だけではなく、一般の方々にも本学会の活動を知っていただき、インプラント治療の正しい知識と理解を広めていければと思います。また、動画による症例紹介や、市民向けの啓発コンテンツなどより親しみやすく、実用的なコンテンツの提供ができるよう私たち総務広報委員会は、今後も学会の発展と会員サービスの向上に努めてまいります。ご意見・ご要望がございましたら本委員会にご連絡ください。

定款(会則) 検討委員会報告

委員長 野口 誠

会則第12条委員会の第4条(委員会)に、新たにアドバイザーの委嘱に関する内規を追加しました。その他、定款会則の改変はありませんでした。

今後も必要に応じて柔軟に対応したいと考えています。

財務委員会報告

委員長 長尾 徹

いつも本学会の事業運営にご協力いただき誠にありがとうございます。2025年度の財務委員会は、副委員長の近津大地先生、委員の矢郷 香先生と新たに城戸寛史先生が加わり、委員長の長尾 徹とともに運営しております。

2025年の財務状況は、決算では収支差額は決算予想を大幅に上回りました。その理由は「広告のできる専門医」スタートを見据えた専門医特別試験の実施によります。また、近年の教育研修会の参加者増が挙げられます。このような増収は、公益法人の要件である「収支相償」(利益を内部にため込まないこと)を満たさなくなりますが、ここで生じた余剰金は、来期以降に導入が遅れている各種電算化のためのデータ管理費用に充当していく予定です。

2025年度の予算案に関しましては、事業支出は前年度対比でほぼ同額を見込んでいます。事業費収入に関しましてはほぼ同額で、今期の会員数は例年通り微増を見込んでおります。その他として会員特別価格でのガイドライン(治療指針)、マニュアル本の在庫完売を見込んでおります。学会員の皆様の活発な学会活動を期待しております。

最後に、例年事務局からのお知らせにも記載しておりますように、遅滞なく年会費を納入していただきますようお願いいたします。

公益社団法人として健全な運営の下で今後も新しい公益事業にも取り組んでまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

雑誌編集委員会報告

委員長 山下佳雄

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力を頂き感謝申し上げます。この度、野口 誠先生より委員長を引き継ぎました佐賀大学の山下です。微力ではございますが、精一杯、勤めて参ります。

現在の本委員会の構成ですが、野口委員長時代の先生方には引き続き業務を継続してもらっております。具体的には副委員長の古谷義隆先生をはじめ9名の委員で運営しております。今後さらに公正かつ広い視点で査読を行うべく、委員の新規増員を検討しているところです。良い論文の執筆者になる近道のひとつとして、査読の経験を積むことが報告されています(Varpio, L., et al. Perspectives on Medical Education, 2018)。もしご興味があり、お手伝いいただける先生がいらっしゃれば、是非ご協力をお願いしたいと存じます。

昨年度の新規投稿論文は16編と、やや増加傾向にありましたが十分な数とは言えません。投稿論文の数が少ない原因としては和文、英文ともに雑誌が乱立している事、

本雑誌はimpact factor等を所有しておらず投稿者に対する大きなアドバンテージがない事などの理由から、ややもすると敬遠されがちなのだと推測します。しかし、学会誌は学会そのものの評価において重要な位置づけにあり、掲載論文数とともに内容は過去・現在・未来におけるパラメーターの1つとも言えます。可能な限り投稿いただきました論文は掲載に導けるようお手伝いに心掛けて査読し、雑誌の品格を下げないように努めて参ります。

科学論文には①新規性があること、②正確性があること、そして③論理的であること、が要求されます。その中で良い論文とは、後世の研究者たちに参考文献として引用される内容を含んだものであり、言い換えれば読み手を意識した論文を作り上げないといけません。読者が投稿論文から何を得られるのかを意識して執筆することが重要となってきます。ぜひ論文作成に取り掛かる前に、この点を意識して執筆いただければと存じます。

本学会誌におきましては、質の高い原著論文の投稿だけでなく、臨床の現場で遭遇した貴重、あるいは希少な症例報告、また新規の技術紹介などインプラント学の発展に寄与する論文を多数、掲載できればと考えております。編集委員一同でしっかり議論し合い、実りのある雑誌作りに努めて参りたいと存じます。是非、多くの投稿をお待ちしております。

第16回優秀論文賞(対象;22巻2号~23巻1号)は下記の論文になりました。おめでとうございます。

原著の部:なし

症例報告の部:22巻2号掲載

タイトル:「カスタムメイドチタンメッシュプレートと自家腸骨海綿骨細片移植による顎骨再建後にインプラント治療を施行した顎骨中心性巨細胞肉芽腫の1例」

論文著者:氷見奈々絵/昭和大学歯学部口腔外科学講座

用字用語委員会報告

委員長 松尾 朗

公益社団法人日本口腔外科学会の用語集の改定が企画されており、そこに本学会が参加する予定で両学会の理事長同士の合意も得られておりましたが、日本口腔外科学会側の改定作業の開始がしばらく延期となっております。今回、やっと始まるようですので、今後、用字用語委員会も動くこととなりそうです。皆様にお手数をおかけすることもあると思いますが、ご協力の程よろしく願いいたします。

渉外委員会報告

委員長 高橋 哲

渉外委員会では海外の諸学会特にアジアの学会等との連携強化に努めています。現在活動はAPISおよびSASOMIとの連携が中心となっています。

Asia Pacific Implant Society (APIS)
の活動アップデート

APIS Secretary General 高橋 哲
APIS Correspondent 宮本郁也

第22回APIS(APISCON)は、2025年1月17-19日にインド・バンガロールで開催され盛大に行われました。コロナ禍の影響でオンライン形式開催、そして前回2023年3月の浙江省での開催もハイブリッド形式でしたので久々のFace to Faceでの開催でした。残念ながらVisaの関係で中国からの参加はありませんでしたが、役員会ではオンライン形式で中国のHuiming Wang先生も参加されました。

日本からは柳井智恵先生、渡辺孝夫先生、北村 豊先生、宮本郁也、高橋 哲の5名が招待されました。オープニングセレモニーでは、インドならではの煌びやかな演出で、全員がマハラジャになりました。

今回のAPISは初めてのインドでの開催ということで、大会長のGirish Rao先生はじめ大変な熱の入れようで、特に今回のテーマが、"Symphony of Innovation: Mastering Implantology in the Modern Era"ということで、新しいDigital技術の応用など先進的な発表が数多くみられました。インドのこの分野における発展は目覚ましいものがあり、特に開催地のバンガロールはインドのシリコンバレーとも呼ばれる土地でCAD/CAM技術をはじめとするImplant Dentistryにおける技術革新に大変感銘を受けました。また今回は残念ながら参加はありませんでしたが、Core Countriesとして日本、韓国、中国、インド、台湾の5カ国にタイが加わることになりました。今年11月に島根で開催される第23回APIS(管野貴浩大会長)の時から本格的に参加していただくと期待しております。

また例年本学会の学術大会の時に併催されているWinter Meetingは昨年11月末の福岡での本大会学術大会での併催はありませんでした。その代わりに、APISが協賛する形で、International Symposiumが開催されました。その中で福岡歯科大学名誉教授の松浦正朗先生からAPIS (PPIS)の歴史についての貴重な講演があり、また韓国Dong Ju Choi先生からは自ら開発されたNarrow Implantを用いた狭小な臼歯部へのインプラントの対応についてのお話がありました。

なお第23回APISは第29回の本学会の学術大会との併催で、管野貴浩大会長で本年11月29日、30日の両日に松江テルサにて開催される予定です。さらに、第24回APISは2026年、台湾での開催となっております。逐次本

学会でも紹介していきます。APISは本学会の国際化に不可欠の学会活動です。本学会の会員の皆様へぜひとも今度の松江でのAPISへの参加はもちろんのこと、海外での開催時の積極的な参加を今後ともよろしくご願ひ申し上げます。



2025年1月にインド・バンガロールで開催された第22回APIS役員会。大会長 Dr. Girish Rao (前列向かって左から四人目)をはじめインド、日本、韓国、台湾から役員が参加した。



2025年1月 インド、バンガロールでのオープニング・セレモニー。海外からの招待参加者はなぜかマハラジャのコスチュームで歓迎された。

The 23rd Asia Pacific Implant Society Conference (APISCON) & General Assembly Conjunction with The 29th Annual Meeting and Scientific Conference of the Japanese Academy of Maxillofacial Implants (JAMI)

"Exploring Oral Function Assessment as an Outcome of Oral-Maxillofacial Implant Treatments."

Date: 2025.11.29 (Sat), 30 (Sun)
Venue: Matsue Terra
Matsue Workers' Comprehensive Welfare Center, Matsue City, Shimane Prefecture
478-18, Asahimachi, Matsue-City, Shimane, 690-0003, Japan

Congress Chair: Prof. Takahiro KANNO
Professor & Director, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine
Steering Committee Chair: Dr. Masako Kobayashi
Associate Professor, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine
Preparatory Chair: Dr. Hiroto Tatsumi
Associate Professor, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine
Preparatory Co-Chair: Dr. Yuhei Matsuda
Associate Professor, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine

https://www.plus-s-ac.com/jamf29/23rd_APISCON.html

第23回APISポスター

教育研修委員会報告

委員長 矢島安朝

2024年度の教育研修委員は以下の通りでした。

委員長：矢島安朝、副委員長：山下佳雄、委員：福田雅幸、城戸寛史、廣安一彦、佐藤 聡、武知正晃

2024年度の第53回日本顎顔面インプラント学会教育研修会は、秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科 福田雅幸教授のもと、8月25日にオンライン形式で開催されました。メインテーマは実行委員長として福田先生が決められた「口腔癌の一貫治療におけるインプラント治療」とされ、関連したタイムリーな7講演が行われました。今回の研修会参加者も過去最高記録を更新し、216名に達し、盛会裏のうちに終了となりました。この研修会を準備いただきました福田先生はじめ秋田大学口腔外科の皆さまに、心より感謝申し上げます。

教育研修委員会では、担当いただく講座の特色が強く出るように、原則としてメインテーマから演者までのすべてを担当される実行委員長のご意見で決定するようにしております。何年か後に「〇〇講座の△△教授主催の教育研修会は大変面白かったね」と伝説になるような企画が飛び出すことを委員一同期待しております。わが医局でもぜひ主催したいと希望される先生方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出ください。

2025年の教育研修会は8月24日にオンライン形式で開催されることが決まりました。東京歯科大学の古谷義隆先生が実行委員長として「インプラント治療におけるトラブル対応を改めて学ぶ」というテーマで実施されます。今年度もどうぞ多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

学術委員会報告

委員長 城戸寛史

1.学術大会における大会長賞などの審査(担当:学術委員長・副委員長を中心に実施)

大会長賞の審査は、以下の手順で実施しています。

審査員の配置:口頭発表の全演題に対して、座長、学術委員、編集委員、あるいはそれらの委員から推薦されたインプラントに精通した会員の中から審査員を選出しています。評価票の準備:学術大会前にアンケート調査を行い、審査員を決定し、評価票を準備します。

審査の実施:審査員は本部で評価票を受け取り、各会場にて発表内容を評価します。審査後は評価票を提出し、事務局にて集計・一覧表を作成します。

各賞の決定:大会2日目の午前中に審査を終え、総会前に大会長・理事長・学術委員長により大会長賞を決定します。

総会での発表:受賞者には、発表内容を学会誌に投稿していただく必要がある旨を説明しています。

第28回学術大会では、東北大学大学院歯学研究科病態マネジメント歯学講座/富山大学の武田裕利先生らによる「顔面多発骨折後の上顎欠損に対しナビゲーションシステムを用いて上顎再建を行った1例」が大会長賞を受賞されました。

2.インプラント手術に関連する重篤な医療トラブルに関するアンケート調査(3年ごとに実施)

第1回調査は矢島安朝委員が担当し、第2回・第3回の調査は河奈裕正委員を中心に実施され、すでに本学会雑誌に掲載されました。

第4回調査については、私が担当し、現在はin pressの状態です。2021年1月1日から2023年12月31日までを対象とする第5回調査は、大阪医科薬科大学の植野高章先生にご担当いただいております。

3.重篤な医療トラブル調査のまとめ

河奈裕正委員を中心として、過去12年間にわたる調査結果を論文としてまとめ、英文誌へ投稿いたしました。

4.赤坂若手奨励基金

2020年に故・赤坂庸子先生からご寄付をいただき、若手研究者の育成を目的とした研究補助制度が設立されました。

毎年、40歳以下の会員を対象に研究補助金の公募を行い、学術委員会を中心に審査を実施し、採択者を決定しています。

初年度の審査方法が煩雑であるのご意見を受け、学術委員会内でアンケートを実施し、その結果を踏まえて2023年度より審査方法を一部改訂いたしました。

2024年度は4件の応募があり、厳正なる審査の結果、慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室の森田麻友先生による「力学的負荷を加えた多重障害インプラント周囲炎モデルの構築」が採択されました。

5.ヒューフレディ賞(ポスター発表に対する学会賞)

第27回学術大会では諸般の事情により実施を見送りましたが、第28回大会では選考を行いました。

その結果、福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野の新藤美湖先生らによる「チタンインプラント粘膜貫通部への結合組織性付着に向けたHERS基底膜成分の応用」が受賞されました。

第29回学術大会においても、本賞の公募は実施される予定です。

以上のように、学術委員会の業務は多岐にわたり、学会にとって重要な内容を数多く含んでおります。

今後とも、会員の皆さまのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

倫理委員会報告

委員長 河奈裕正

倫理委員会は、柳井智恵副委員長、石崎憲委員、佐藤淳一委員、富原 圭委員、弁護士横山敏秀委員、私とで務めてまいります。また、前委員長の福田仁一先生にはアドバイザーとして引き続きのご助言をお願いしています。

昨年度の活動は、倫理審査依頼書、審査結果報告書の改変を行い、より分かりやすい内容にいたしました。申請は学会主導のアンケート調査に係る2件があり、審査を行いました。

今後も、学会の定める研究及び臨床における倫理綱領に則った活動をしてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

医療・情報管理委員会報告

委員長 宮本郁也

このたび、会員データベース管理委員会と医療委員会を統合し、新たに「医療・情報管理委員会」が設立されました。委員長宮本郁也以下、副委員長古谷義隆、委員立川敬子、関谷秀樹、福澤 智、藤井俊治により務めてまいります。これまで、前身のふたつの委員会で委員長を務めてくださった藤井俊治先生には、深く感謝申し上げます。藤井先生には、今後も委員としてご参加いただき、これまでの経験をもとにご助言をいただきたく思います。

委員会の主な取り組みは、会員の皆様の活動履歴等を網羅する「会員データベース」を整備、更新することです。これらの情報を適切に整備し、各種資格の申請や更新に必要な情報を管理することを目指しています。「会員データベース」は、会員の皆様の学会活動状況を把握するうえで重要な資料となります。また、ご活躍いただいている先生方に運営審議へご参画いただくための根拠資料となります。

さらに、患者の医療安全向上を目的とし、「国際インプラント手帳」の普及にも取り組んでいます。本手帳の活用は、将来的に専門医申請の必須要件となる予定です。会員の皆様には、今まで以上に「国際インプラント手帳」をご活用いただくようお願い申し上げます。

本委員会の運営は、まだ始まったばかりで手探りの状態です。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

薬剤関連調査委員会報告

委員長 松尾 朗

2013年の前回調査から10年以上が経過し、今回、本邦におけるMRONJのポジションペーパーも改定されたことから、新たなインプラントと関連する薬剤関連顎骨壊死アンケート調査を再度実施しております。昨今の倫理申請の厳格化の状況を受け、今回は、まず第1報としてインプラントと関連する薬剤関連顎骨壊死症例の有無と各施設の方針に関するアンケートを研修施設宛に送付し集計しているところで、経験症例のあった施設を対象とし、今後第2弾の詳細アンケート調査を実施する2段階方式としております。皆様にはお手数をかけることもありますが、学会にとって重要な事業の一つですのでご協力の程よろしくお願ひいたします。

社会保険委員会報告

委員長 河奈裕正

社会保険委員会は、外木守雄副委員長、川本義明委員、近津大地委員、廣田 誠委員、堀江伸行委員、宗像源博委員、私とで務めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

報告事項としては、令和7年3月11日に、日本歯科医学会主催による令和8年度診療報酬改定医療技術評価提案書に係る説明会がオンライン形式で開催され、出席しました。

現在、令和8年度診療報酬改定に向けて、令和3年にご協力いただきましたアンケート結果を基に、日本歯科医学会ご指導の下、厚生労働省への申請作業を進めております。

脱タバコ社会実現委員会報告

委員長 長尾 徹

本委員会は、副委員長の河奈裕正先生、委員の瀬戸院一先生、名誉会員の福田仁一先生、菅井敏郎先生に加え、新たに植野高章先生が加わり構成されています。本委員会は歯科系合同脱タバコ社会実現委員会(10学会合同脱タバコ社会実現委員会)の中心的存在として禁煙推進活動を行っています。

2024年度の活動をご報告します。

1. タバコ関連企業関係の学会入会・学会発表・論文投稿に対する各学会の対応

歯科系合同脱タバコ社会実現委員会に加盟する10学会すべてが、タバコ関連企業から援助を受けた学会発表、論文投稿を受理しない規程を設けました。本学会もタバコ関連企業関係の論文投稿に対する指針が承認され運用開始となっています。(2024年vol.23、No.1学会誌の投稿規定に掲載)

2. 歯科系合同脱タバコ社会実現委員会の「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」のアップデートについて

2022年1月7日にホームページに掲載された「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」に、新たな科学的知見を加えたアップデート版を各学会ホームページに掲載し、日本歯科医師会や関連団体等関連機関への配布を行いました。

<https://www.jamfi.net/tfdr/statement.html>

これにより歯科医療従事者に対して急速に普及している加熱式タバコの影響に対する正しい科学的知識の普及と情報提供を行っています。

3. その他

1) 歯科系合同脱タバコ社会実現委員会は、「子どもをタバコから守る会・愛知主催の2024年世界禁煙デー」(2024年5月26日開催)の後援をしました。

2) 歯科系合同脱タバコ社会実現委員会のホームページをリニューアルしました。

<https://www.jamfi.net/tfdr/index.html>

喫煙に関連した各種学会のイベントの新着情報についても情報提供し、喫煙対策、禁煙支援の基礎知識等の情報を載せています。また、歯科医師国家試験で過去に出題された喫煙関連問題も掲載しました。

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.jamfi.net%2Ftfdr%2Fkokkashiken_shikaishi.pptx&wdOrigin=BROWSELINK

3) 歯科系合同脱タバコ社会実現委員会は、厚生労働省が推進している働き方改革の中で、歯科衛生士の禁煙支援での活動推進に向けて、禁煙教育の充実さらに禁煙支援の保険収載を目指して、その実施のための具体的な方

策を検討していくこととなりました。

4) 同委員会の参加学会の1つである日本口腔衛生学会は、「日常の歯科臨床における簡易禁煙支援のための手引書」を同禁煙推進委員会の作業で作成しました。

https://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/publication/guideline/file/guideline_202408.pdf

5) 日本癌学会の禁煙ロゴの使用許諾を得て、歯科系合同脱タバコ社会実現委員会で禁煙ポスター、スタンディングバナーを作製しました。今後各学会の学術総会等で使用し禁煙推進、禁煙知識の普及を進めてまいります。

研修カリキュラム委員会報告

委員長 小倉 晋

本年度より藤井俊治前委員長より引き継いで委員長を仰せつかりました小倉です。研修カリキュラム委員会ではインプラント歯科専門医を目指すために研修施設で研鑽するカリキュラムを作成しております。

その研修カリキュラムを基に日本歯科専門医機構、日本口腔インプラント学会の担当者とワーキンググループ会議を開催して両学会が同一基準で研修を受けられるようにカリキュラムの修正、申請症例単位表や評価表の作成を行っていますが、日本歯科専門医機構の意向や日本口腔インプラント学会との合意事項(専門医制度や研修施設を再整備)に対応して修正を行っています。そのため、当委員会としてはその経過をもって活動していく予定です。

賛助会員制度促進委員会報告

委員長 高橋 哲

賛助会員制度促進委員会の委員長を任されている高橋です。本学会では本学会の活動の基盤のひとつとして賛助会員制度を設け、顎顔面インプラント事業をご展開される各企業を中心にご入会いただいております。昨年度1社が新たに加わり11社となりましたが、本年度の参加はまだありません。デンタルインプラントのみならず関連した製品の開発、医療現場への供給等に直接携わる各企業からのご支援は、歯科医学の発展を通じた国民医療の充実や医薬品産業の発展における重要な役割を担うとともに、公益社団の学術団体である本学会の運営において必要不可欠な要素であると思っております。特にAPISを開催する今年はその運営に多大な費用負担も余儀なくされ、賛助会員制度促進委員会としては今後これまでにないスピード感と危機感を持って賛助会員を増やす所存です。本学会では国民医療を目指したデンタルインプラントの普及のため、地道に賛助会員を増やそうと思っております。会員の皆様にも参加して下さる企業を紹介していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。皆様におきましては身近に参加していただければと思います。下記のメールアドレスまでよろしくお願い申し上げます。
(tetsudenttohoku@gmail.com)

診療ガイドライン作成委員会報告

委員長 菅野貴浩

2018年より常置委員会の1つとして設置された本委員会の委員長を拝命し、今年度は、柳井智恵副委員長、福田雅幸先生、堀江伸行先生、立川敬子先生、小山重人先生とともに、6名体制で活動にあっております。

2022年8月には、本学会として広範囲顎骨支持型装置治療に焦点を当てた診療指針『顎骨再建とインプラントによる治療指針 — 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル —』を、インプラントジャーナルおよび歯科専門書籍を出版するゼニス出版より上梓いたしました。今後も引き続き、本治療指針が、広範囲顎骨欠損を有する多くの患者さんの治療現場において、歯科各専門医(口腔外科、歯周病、歯科麻酔、小児歯科、歯科放射線、補綴歯科、矯正歯科、インプラント歯科等)、医科各専門医(形成外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、リハビリテーション科等)、言語

聴覚士をはじめとする多職種医療チームによる連携診療の一助として、幅広く活用されることを強く願っております。

今後は、さらなる広範囲顎骨支持型装置治療に関するエビデンスの構築、ならびに診療報酬制度の見直しに資する活動を進めるとともに、発刊後に寄せられた多くのご意見・ご要望を集約し、適時改訂を行うことで、将来的には本書を基礎とした診療ガイドラインの作成を目指してまいります。

広告のできる専門医推進委員会報告

委員長 瀬戸皖一

日本歯科専門医機構、日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会の3団体で、昨年5月から本年4月までに計5回のワーキンググループ会議が開催されました。ワーキンググループで話し合われた内容については毎年12月に開催される本学会総会学術大会で逐次報告しています。今年はその内容の一部を学会ホームページから閲覧できるようにしました。現在は日本歯科専門医機構認定専門医制度規定および施行細則の修正と専門医を育成する研修施設、准研修施設の選定を行っているところです。ご存じのように日本顎顔面インプラント学会では3月に、症例数、症例内容、施設の設備状況などの予備調査を行い、日本歯科専門医機構に報告を行いました。今後は専門医の申請書、研修施設・准研修施設の申請書等申請書類様式の作成を行っていく予定です。

今までの日本顎顔面インプラント学会の研修施設・准研修施設がそのまま引き継がれるわけではないので、症例数が少なかったり、補綴治療を行っていないなど治療内容に偏りがあったり、医療設備が不十分であるという理由で、継続ができない施設も出てきますが、公益社団法人が国民に向かって行う制度です。ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

診療マニュアル作成委員会報告

委員長 矢郷 香

診療マニュアル作成委員会は、引き続き矢郷が委員長を仰せつかり、副委員長は木津康博先生、編集委員は河奈裕正先生、藤井俊治先生、丸川恵理子先生で任に当たっています。

2025年2月11日、2月23日に行われた専門医試験と専門医認定特別試験では、本学会編の「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」と「顎骨再建とインプラントによる治療指針」からインプラント専門医が熟知していなければならない事項について問われました。専門医取得だけでなく、インプラント治療における教育に関して教育目標・到達点が示されており、研修施設および准研修施設での研修にも必須の本ですので是非ともご購入、ご活用ください。今後、日本歯科専門医機構認定「インプラント歯科専門医」取得のためには外科だけではなく補綴やペリオの知識・技能も求められています。マニュアル本には、インプラント歯科補綴やインプラント周囲炎の対処等についても、各分野の専門家がわかりやすく解説しています。

マニュアル本は、会員だけではなく非会員にも非常に好評で、本の売れ行きも良く、おかげさまで学会に印税が入りました。編著者、著者の先生方には財政面でも学会にご協力をいただいたこと、お忙しい中、執筆いただいたことを改めて感謝申し上げます。

マニュアル本は会員特別価格で購入できますので、まだ購入されていない方は、学会ホームページからお申し込みください。

共同研究委員会(日本顎顔面補綴学会)報告

委員長 管野貴浩

2023年度より新たに常置委員会として設置された本委員会の委員長を拝命し、小山重人副委員長、高橋 哲先生、山下佳雄先生、柳井智恵先生、堀江伸行先生とともに、6名で活動を進めております。

ご承知のとおり、2012年の歯科診療報酬改定において、広範囲に及ぶ顎骨欠損患者に対する歯科インプラント治療が、「広範囲顎骨支持型装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」として保険収載されました。しかしながら、対象となる顎骨欠損患者は極めて特殊な病態を呈することが多く、現時点では確立された診療ガイドラインが存在しない中で、診断および治療が各施設の裁量に委ねられており、適用基準や標準的治療方針にばらつきがあるのが実情です。

さらに、広範囲顎骨支持型装置においては、インプラント体のディスインテグレーションやインプラント周囲炎、周囲粘膜の異常増殖といった併発症が、通常のインプラント症例と比較して高頻度に、かつ重篤化しやすいことが報告されています。これらの合併症の発生率やリスクファクター（再建の有無、設置部位、軟組織移植の有無など）を明らかにすることが喫緊の課題ですが、各施設での症例数には限界があり、加えて評価基準も統一されていないことから、十分なエビデンスが得られていないのが現状です。

こうした課題に対し、同様の課題意識を持つ（一社）日本顎顔面補綴学会と連携し、共通の診断・評価基準および治療プロトコルに基づいた多施設共同研究を実施する運びとなりました。この研究では、継続的なデータ収集を通じて、広範囲顎骨支持型装置の残存率や成功率に関する長期的な予後、ならびに関連する併発症の発生率を明らかにするとともに、広範囲顎骨支持型補綴装置が口腔機能に及ぼす影響の評価を目的としています。

本研究は、本学会の研修施設および准研修施設を対象に、東北大学歯学部 顎顔面口腔再建治療部を研究代表機関として、多施設共同研究の参加施設を募集し、現在までに全21施設から参加の承諾を得て、鋭意臨床研究を進めているところです。

《 総会・学術大会の報告 》

第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会の報告

大会長：福岡歯科大学 口腔インプラント学分野 教授 城戸寛史
 実行委員長：福岡歯科大学 口腔インプラント学分野 准教授 加倉加恵

■第28回 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を終えて

第28回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会は、2024年11月30日(土)から12月1日(日)にかけて、福岡市にて開催いたしました。福岡での開催は、2005年に松浦正朗先生が大会長を務められて以来、約20年ぶり2回目となります。

今回の大会テーマは「多職種連携 UPDATE」でした。新たな試みとして、(一社)日本顎顔面補綴学会の第41回学術大会と併催する運びとなり、準備段階では多少の困難もありましたが、古賀千尋大会長、都築尊実行委員長をはじめ、多くの方々のご尽力により無事開催することができました。この併催については、参加された多くの先生方から高い評価をいただき、今後の両学会の連携強化につながることを期待しております。

特別講演では、「歯生え薬」の研究開発でご高名な北野病院歯科口腔外科の高橋 克先生にご登壇いただきました。講演では、先天的に永久歯が生えない2歳から7歳の小児を対象とした治療が2025年度中に開始予定であることや、2030年を目標に先天性無歯症に対する実用化を目指していることが紹介されました。さらに、実用化に必要な認可の流れについてもご説明いただき、再生医療に関心を持つ多くの参加者にとって大変有益な内容となりました。

教育講演も非常に充実した内容でした。

教育講演Iでは、福岡歯科大学摂食嚥下言語センターの山野貴史教授より、耳鼻咽喉科と連携した摂食嚥下診療についてご講演いただきました。

教育講演IIでは、同大学の田中芳彦教授により、腸内細菌と歯周病の関連性についてご解説いただきました。歯周病原菌が腸内に到達し、免疫応答を介して歯周病の発症や重症化を引き起こす仕組みについてのご説明は、大変興味深いものでした。

教育講演IIIでは、岩手大学の原田英光教授にご登壇いただき、発生学的観点から軟組織とチタンアバットメントの接着に関する最新の知見をご紹介いただきました。この研究の進展により、インプラントの頸部シーリングに関する課題の克服が期待されます。

さらに、以下の3つのシンポジウムが開催され、活発な意見交換が行われました。

シンポジウムI:

「多職種連携 UPDATE (多職種に学び、連携を深めよう)」

シンポジウムII:

「睡眠時無呼吸症候群 (Airway Dentistry: 歯科治療による気道の変化と閉塞性睡眠時無呼吸症との関連)」

シンポジウムIII:

「教育研修会 顎補綴治療のストラテジー (下顎編)」

また、国際セッションであるAPISも併催されました。前身であるPPISの創設に携わった松浦正朗先生や韓国のChoi Dong-ju先生からは、創設時のご苦勞や思い出深いお話を伺うことができました。台湾からはWei Hung He先生、アメリカからはUniversity of Illinois Health Craniofacial CenterのAkanksha Srivastava先生にご登壇いただき、特にSrivastava先生には「Emerging Technologies in Maxillofacial Prosthetics: Virtual and Augmented Reality」というテーマで貴重なご講演をいただきました。国際的な交流の場としても大変意義深い機会となりました。

12月初旬の福岡は冬の味覚が楽しめる季節であり、参加された皆様には、学会後に地元の美味しい料理や屋台めぐりなどもお楽しみいただけたことと思います。

最後に、本大会の開催にあたり、ご協力を賜りましたすべての皆様に心より深く感謝申し上げます。



特別講演の北野病院歯科口腔外科の高橋 克先生を囲んで、左より城戸大会長、高橋 克先生、岩手大学の原田英光教授、古賀大会長。



メイン会場：多くの会員の皆様にご参加いただきました。



APIS Winter Meeting



スタッフ集合写真

《 総会・学術大会のご案内 》

第29回 日本顎顔面インプラント学会 総会および学術大会のご案内

THE 23rd ASIA PACIFIC IMPLANT SOCIETY CONFERENCE & GENERAL ASSEMBLY

島根大学医学部歯科口腔外科学講座教授 管野貴浩

■第29回 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会/第23回Asia Pacific Implant Society Conference (APISCON)に向けて

★一般演題登録と学会参加登録のお願いにて★
大会ホームページ:

<https://www.plus-s-ac.com/jamfi29/>

2025年11月29日(土)～11月30日(日)にかけて、島根県松江市の松江テルサ(松江勤労者総合福祉センター)およびオンデマンド配信にて、「第29回 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会」を開催いたします。なお、理事会、運営審議委員会、各種委員会等は前日の11月28日(金)に予定しております。

このたび、栄誉ある大会長の重責を拝命いたしました。ご参加くださる皆様のご期待にお応えすべく、教室員一同、誠心誠意準備に努めております。

今回の学術大会では、「顎顔面インプラント治療のアウトカムとしての口腔機能評価を深考する」をテーマに掲げました。近年、口腔機能発達不全症(小児)、オーラルフレイルや口腔機能低下症(高齢者)など、年齢や背景を問わず「口腔機能」そのものへの注目が高まっております。これは、単なる疾患の治療にとどまらず、機能の発達・維持・再建までを包括的にとらえる新たな視点の到来を示唆しています。

顎顔面インプラント治療は、顎口腔腫瘍、外傷、炎症、先天性疾患といった複雑な口腔外科疾患に対し、機能と形態の両立を目指す高度で集学的なアプローチです。とりわけ、失われた口腔機能の回復という観点において、私たち歯科医師の果たすべき役割はますます重要性を増しており、本学会がその先導的役割を担うべきであると強く感じております。

本大会のテーマに掲げた「口腔機能評価」を再定義し、そのアウトカムとしての意義を改めて問い直すことが、顎顔面インプラント学の新たな地平を切り拓くと確信しております。幅広く多様な演題を募集いたしますので、皆様の積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

また、本大会と同時に「第23回 Asia Pacific Implant Society Conference (APISCON)」も開催されます。アジア各国から著名なインプラント治療の専門家が一堂に会し、国際的な視点からの活発な議論と学術交流が展開される貴重な機会となります。多文化・多視点の融合によって、臨床と研究の最前線を共有できる場となることを期待

しております。

開催地である松江市は、国宝・松江城の城下に広がる歴史情緒あふれる町並みとともに、日本三大菓子・茶処としても知られる文化の薫り高い都市です。城下町の風情を堪能できる「堀川遊覧」、夕日に染まる宍道湖の絶景、そしてドグロやシジミ、島根和牛など山陰の秋の味覚が訪れる皆様をお迎えします。懇親会では、地元料理を気軽に楽しんでいただけるカジュアルな空間を用意し、会員間の交流がより深まる場といたします。

交通アクセスも至便で、出雲縁結び空港および米子鬼太郎空港からのアクセスが可能です。また、電車で足を延ばせば、古代信仰の聖地・出雲大社へも訪れることができます。

第29回学術大会は、顎顔面インプラント治療に関する最先端の知見と実践を共有する場であるとともに、松江という地の魅力を存分に体感しながら、参加者同士の交流を深める貴重な機会でもあります。皆様にとって実り多きひとときとなるよう、準備を進めてまいりますので、ぜひとも奮ってご参加賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



松江テルサ
(松江勤労者総合福祉センター)
〒690-0003 島根県松江市朝日 478-18
(JR 松江駅前) Tel:0852-31-5550



全国で現存する12天守のうち
の1つで、唯一の正統天守「松
江城」



「日本の夕日百選」にも選ばれた
嫁ヶ島の残照と宍道湖



縁結びの神・福の神として名
高い出雲大社



山陰の美味：松葉ガニ

《 総会・学術大会のご案内 》

第30回 日本顎顔面インプラント学会 総会および学術大会のご案内

日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科教授 小倉 晋

■第30回 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会に向けて

2026年11月28日(土)～11月29日(日)理事会、運営審議委員会、各種委員会等は11月27日(金)の日程で、日本歯科大学生命歯学部にて、第30回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を開催いたします。

この度、大変栄えある大会長の任を仰せつかりました。皆様方の期待に応えられますよう、教室員一同にて、鋭意努め、万全の準備を整える所存です。先んじて、学術大会のテーマを教室員で検討いたしました。第30回学術大会では、節目の大会として顎顔面インプラント治療の今までを振り返ると同時にこれからの技術革新を念頭においたテーマとし、「インプラント治療の変遷と展望」といたしました。

近年、デジタル技術の進歩によりインプラント治療に大きな変革がもたらされています。3DスキャンやCAD/CAM技術の発展が、フェイススキャンによる診断やダイナミックナビゲーションによる埋入手術、模型レスの上部構造製作と「従来の」インプラント治療とは異なる様相を示しております。来たる第30回学術大会では「従来法」とされてきたインプラント治療を回顧し、これからの技術革新との融合に

ついて、ディスカッションできる場になればと考えております。広く多岐にわたる演題を募集いたしますので、皆様奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

会場は都心のほぼ中央に位置し、飯田橋駅および九段下駅の利用が可能でアクセスは非常に良いです。飯田橋駅は、JR中央・総武線、東京メトロ東西線、有楽町線、南北線、都営地下鉄大江戸線が利用でき、東京駅から15分以内という立地です。再開発により駅舎が新しくなり、複合商業施設が増えております。九段下駅は、東京メトロ半蔵門線、東西線、都営新宿線が利用できます。近隣には縁結びで有名な東京大神宮や靖国神社、TVドラマの撮影によく使用されるCANAL CAFÉ、昔ながらの日本情緒とモダンな文化の共存した神楽坂では、老舗の料亭や隠れ家的な和食、在日フランス人の方が多く住むエリアのためフレンチレストランやカフェが多くあります。

第30回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会は、会員の方々にとって、インプラント治療の学びの場となるだけでなく、さまざまな施設の先生方との交流や情報交換の機会となります。具体的な企画はこれからですが、皆様に充実した時間をお過ごしいただけるよう教室一丸となって準備いたします。ご参加を心よりお待ちしております。

《日本顎顔面インプラント学会 常置委員会》

常置委員会・委員一覧 (2025年4月1日)

- **専門医制度委員会** (専門医制度規則により9名以内)
 委員長 加藤仁夫
 副委員長 蒔生田整治
 委員 藤井俊治、小倉 晋、河奈裕正、矢島安朝、立川敬子、高野裕史、廣安一彦 (9名)
 アドバイザー 高森 等(名誉会員)
- **専門医資格認定審査会** (専門医制度規則により8名以内)
 委員長 福田雅幸
 副委員長 野口 誠
 委員 矢郷 香、松尾 朗、管野貴浩、山下佳雄、金子貴広、古谷義隆 (8名)
- **研修施設資格認定審査会** (専門医制度規則により6名以内)
 委員長 日比英晴
 副委員長 栗田 浩
 委員 長尾 徹、柳井智恵、代田達夫、村田 勝 (6名)
- **総務広報委員会**
 委員長 矢郷 香
 副委員長 蒔生田整治
 委員 又賀泉、石垣佳希、宮本郁也、丸川恵理子、木津康博、白田 慎、作山 葵
- **定款(会則)検討委員会**
 委員長 野口 誠
 副委員長 松尾 朗
 委員 矢郷 香、山下佳雄、吉村仁志、岡本俊宏
- **財務委員会**
 委員長 長尾 徹
 副委員長 近津大地
 委員 矢郷 香、城戸寛史
- **教育研修委員会**
 委員長 矢島安朝
 副委員長 山下佳雄
 委員 福田雅幸、城戸寛史、廣安一彦、武知正晃、古谷義隆
- **雑誌編集委員会**
 委員長 山下佳雄
 副委員長 古谷義隆
 委員 加藤仁夫、福田雅幸、立川敬子、小倉 晋、小山重人、関根秀志、代田達夫、加倉加恵、野口 誠、今 一裕
- **用字用語委員会**
 委員長 松尾 朗
 副委員長 立川敬子
 委員 塩田 真、佐藤 聡、小倉 晋、近津大地
- **渉外委員会**
 委員長 高橋 哲
 副委員長 宮本郁也
 委員 河奈裕正、北村 豊
- **社会保険委員会**
 委員長 河奈裕正
 副委員長 外木守雄
 委員 近津大地、川本義明、廣田 誠、宗像源博、堀江伸行
- **学術委員会**
 委員長 城戸寛史
 副委員長 加藤仁夫
 委員 佐藤淳一、植野高章、岡本俊宏、関根秀志
- **倫理委員会**
 委員長 河奈裕正
 副委員長 柳井智恵
 委員 佐藤淳一、横山敏秀(弁護士)、石崎 憲、富原 圭
 アドバイザー 福田仁一(名誉会員)
- **医療・情報管理委員会**
 委員長 宮本郁也
 副委員長 古谷義隆
 委員 立川敬子、関谷秀樹、福澤 智、藤井俊治、金子貴広、二宮嘉昭
- **薬剤関連調査委員会**
 委員長 松尾 朗
 副委員長 矢郷 香
 委員 河奈裕正、管野貴浩、小山重人、蒔生田整治、古谷義隆
- **脱夕バコ社会実現委員会**
 委員長 長尾 徹
 副委員長 河奈裕正
 委員 瀬戸皖一、植野高章
 アドバイザー 菅井敏郎(名誉会員)、福田仁一(名誉会員)
- **研修カリキュラム委員会**
 委員長 小倉 晋
 副委員長 矢島安朝
 委員 藤井俊治、高橋 哲、河奈裕正、蒔生田整治、山下佳雄、宮本郁也
- **賛助会員制度促進委員会**
 委員長 高橋 哲
 副委員長 小倉 晋
 委員 立川敬子
- **診療ガイドライン作成委員会**
 委員長 管野貴浩
 副委員長 柳井智恵
 委員 福田雅幸、堀江伸行、立川敬子、小山重人
- **広告のできる専門医推進委員会**
 委員長 瀬戸皖一
 副委員長 藤井俊治
 委員 矢島安朝、矢郷 香、管野貴浩、福田雅幸、日比英晴、加藤仁夫
 アドバイザー 福田仁一(名誉会員)
- **診療マニュアル作成委員会**
 委員長 矢郷 香
 副委員長 木津康博
 委員 藤井俊治、河奈裕正、丸川恵理子
- **感染症対策委員会(名称変更)**
 委員長 瀬戸皖一
 副委員長 高橋 哲
 委員 関谷秀樹、廣安一彦、丸川恵理子
- **共同研究委員会(日本顎顔面補綴学会)**
 委員長 管野貴浩
 副委員長 小山重人
 委員 高橋 哲、山下佳雄、柳井智恵、堀江伸行

《 2025年、2026年 インプラント関連学会案内 》

学会開催予定一覧

2025年9月～2026年5月

- 2025年9月15日(月)～20日(土)
American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (AAOMS) 107th Annual Meeting
会場:アメリカ・ワシントンD.C.
公式サイト: <https://www.aaoms.org>
- 2025年9月18日(木)～20日(土)
European Association for Osseointegration (EAO) 2025 Annual Scientific Meeting
会場:モナコ公国・グリマルディフォーラム (Grimaldi Forum)
共催:フランス歯周・口腔インプラント学会 (SFPIO)
公式サイト: <https://congress.eao.org/en/>
- 2025年10月24日(金)～26日(日)
第55回 日本口腔インプラント学会 学術大会
会場:福岡国際会議場・マリンメッセ福岡B館
大会長:細川 隆司(九州歯科大学)
公式サイト: <https://jsoi2025.com/>
- 2025年11月14日(金)～16日(日)
第70回 日本口腔外科学会 総会・学術大会
会場:福岡国際会議場・福岡サンパレス
大会長:楠川 仁悟(久留米大学)
公式サイト: <https://www.congre.co.jp/jsoms2025/>
- 2025年11月29日(土)・30日(日)
第29回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
会場:島根県 松江テルサ
大会長:菅野 貴浩(島根大学)
共催:第23回Asia Pacific Implant Society Conference (APISCON)
公式サイト: <https://www.plus-s-ac.com/jamfi29/>
- 2026年3月5日(木)～7日(土)
Academy of Osseointegration (AO) Annual Meeting 2026
会場:アメリカ・ワシントンD.C.
公式サイト: <https://osseointegration.org/event/2026-annual-meeting-in-washington-dc/>
- 2026年3月27日(金)～29日(日)
Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery (ACOMS) 2026
会場:香港・Hong Kong Convention and Exhibition Centre
大会長:Professor Mike Yiu Yan Leung(香港大学)
公式サイト: <https://acom2026.org>
- 2026年5月16日(土)・17日(日)
Asia Pacific Implant Society (APIS) 2026
会場:台湾・台北

《 研修施設紹介① 》

総合南東北病院医療クリニック 顎顔面インプラントセンター

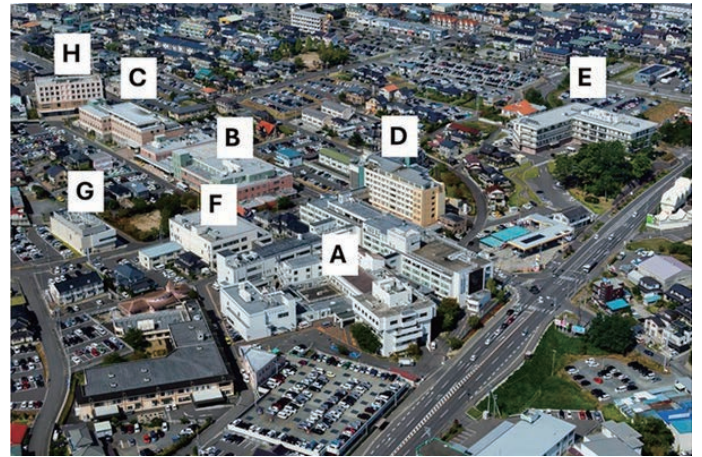
センター長 春日井昇平（総合南東北病院医療クリニック）

総合南東北病院は福島県立医大出身の脳外科医渡邊一夫（前理事長、現南東北グループ総長）が、1981年に福島県郡山市に開設した南東北脳神経外科病院を前身とする私立病院である。病床数600の本院に隣接して、医療クリニック、眼科クリニック、がん陽子線治療センターが併設されている。当病院は、癌に対する先端的放射線治療（陽子線治療、BNCT等）をおこなっている病院として著名である。本院および隣接する医療施設全体の写真を示した(図)。口腔外科外来は本院および医療クリニックにあり、歯科外来は医療クリニックにあり、当施設では口腔外科および歯科に所属する歯科医師がインプラント治療をおこなっている。

2009年に瀬戸皖一（口腔外科学会および日本顎顔面インプラント学会元理事長、鶴見大学口腔外科元教授）が当病院の口腔外科に赴任し、当病院の口腔外科およびインプラント臨床は大きく発展した。2019年に和泉雄一（東京医科歯科大学歯周病学分野元教授）、2021年に春日井昇平（同大学インプラント・口腔再生医学分野元教授）、2024年に高橋 哲（東北大学顎顔面・口腔外科学分野前教授）が加わり、最高レベルの臨床・研究・教育が可能な体制が整っている。

昨年（2024年）の臨床実績は、インプラント症例68、その中で高度先進医療症例3、インプラント埋入本数139であった。福島県には福島県立医科大学附属病院口腔外科および奥羽大学歯学部附属病院、また診療科として口腔外科がある病院が複数存在するが、インプラント治療の難症例・問題症例に対応できる医療機関は多くない。当施設では、インプラント周囲炎を含めて他医療機関でインプラント治療をおこなって問題が起きた症例への対応が増加している。

現在、辻 孝先生（東京理科大学元教授、理化学研究所元主任研究員、現在株式会社オーガンテック社長）と大島 充先生（徳島大学顎機能咬合再建学分野 准教授）と協同で、天然歯と同様の歯周組織（セメント質と歯根膜組織）を有するインプラントの臨床試験をおこなっている。さらに、新規の骨再生法、低侵襲インプラント治療に関する臨床研究を計画している。世界的なインプラントの教育・臨床・研究の中心として、当研修施設を発展させていきたい。



空から見た総合南東北病院と関連施設
 本院と救急センター(A)
 医療クリニック・眼科クリニック・ヘリポート(B)
 陽子線治療センター(C)
 北棟(D)、第2病院(E)、管理棟(F)
 創薬・サイクロトロン研究センター(G)
 宿泊施設(H)

《 研修施設紹介② 》

日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科

科長 小倉 晋（日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科 教授）

研修施設としての日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科の紹介

日本歯科大学附属病院におけるインプラント治療は1984年4月に口腔外科、補綴科、歯周病科、歯科放射線科、歯科麻酔科から成るプロジェクトチームが発足し、翌年の1985年にヨーテポリ大学のブローネマルク教授が執刀した第1号患者が始まりです。その後の1991年1月に歯科大学病院としては本邦初の口腔インプラント専門の診療科として設立されました。2001年に大学の機構改革により名称がインプラント診療センターとなり、2010年12月に本学会の研修施設として認定されました。2015年には口腔インプラント診療科として再編成され今年（2025年）で設立34年になりました。設立当初は高森 等 名誉教授を中心に高度先進医療としての無菌顎症例を主に行っていましたが、現在では時代のニーズの変化に伴いあらゆることに対応しています。

常勤スタッフは教授2名、講師1名、助教3名、臨床助手1名、レジデント1名の計8名で構成されており、診療・学生教育・研究を行っております。本学会の認定指導医・専門医が2名、認定専門医が1名在籍しております。また、広範囲顎骨支持型補綴症例においては本院口腔外科や東京慈恵会医科大学形成外科と連携を行い治療に当たっております。さらに高次医療機関として病診医療連携も積極的に行っております。

教育においては、4学年時に講義と実習に加え、5学年時の病院実習において積極的な診療参加を取り入れており、臨床研修医に対しても臨床力と研究能力を兼ね備えた歯科医師の育成に力を注いでいます。

研究面では、基礎から臨床にまたがる幅広いテーマに取り組んでおり、国内外の学会発表・論文発表も積極的に行っています。

今後は、デジタルデンティストリーを積極的に導入し、安全・安心でより高精度かつ低侵襲な医療の提供を目指し、本学会における研修施設として貢献したいと思っております。



JR飯田橋駅から見た附属病院



外来診療室（その1）



外来診療室（その2）

《 研修施設紹介③ 》

秋田大学 附属病院 歯科口腔外科

診療科長 高野裕史 (秋田大学 附属病院 准教授・診療科長)

秋田大学医学部は、1945年に設置された秋田県立女子医学専門学校が前身で、1970年4月に秋田大学に医学部が設置され、附属病院は翌年4月に秋田県立女子医学専門学校の後身の秋田県立中央病院を移管して設置されました。12診療科でスタートした中に歯科も設置されていたので、54年経過して現在に至ります。現在の秋田大学医学部附属病院は、34診療科、615床で運営しており、歯科口腔外科は秋田県内唯一の日本顎顔面インプラント学会、日本口腔インプラント学会、日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本有病者歯科医療学会、日本顎関節学会および日本口腔科学会の研修施設になっています。

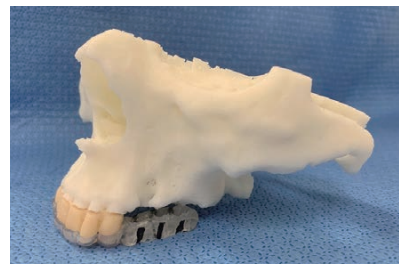
当科は、現在院内歯科医師10名(公益社団法人日本口腔外科学会専門医/指導医1名、専門医3名、認定医3名を含む)、歯科衛生士3名、歯科技工士2名で口腔外科診療を中心に診療を担っており、秋田県の口腔外科疾患の三次医療機関および地域の中核病院として、口腔顎顔面の腫瘍・外傷・炎症・嚢胞、顎変形症、口唇口蓋裂、顎関節疾患、そして歯科インプラントの治療を専門に行っています。また、全身疾患を有する患者や障害者のために、入院下での歯科治療、全身疾患の治療上支障となる口腔疾患や全身疾患に関連する口腔内症状の診断や治療および口腔ケア指導によるQOLの向上への支援も行っています。

当科のインプラントに関する研究は、骨芽細胞への分化とミネラル化の促進をさせるシグナルとして、徐放型の亜鉛イオンに注目し、亜鉛修飾型チタン系を研究しています。また、従来の骨格を再現するフレームワークに対し、この亜鉛徐放型チタン系インプラントを応用した骨再生治療を試みています。

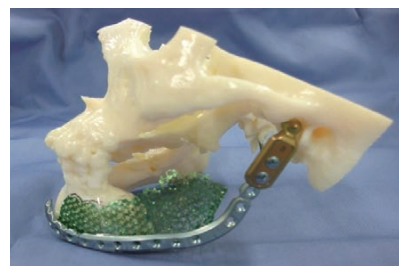
インプラントと顎骨壊死に関する研究では、ビスフォスフォネート(BP)の骨芽細胞への作用に着目し、BPが骨芽細胞に及ぼす影響とインプラントからの咬合力を想定し、機械的圧縮ストレス刺激に対する反応を研究しています。BPおよび機械的圧縮ストレス刺激は骨芽細胞に対し分化誘導を促し、骨代謝回転を促進させ、BPの沈着に影響しているものと思われま

す。インプラント治療においては、1999年にインプラント義歯の高度先進医療の認可を受ける以前から行っており、顎骨再建後のインプラント治療による咬合再建や口腔がんや唇顎口蓋裂治療の一貫治療としてのインプラント治療など、顎顔面インプラント治療に関する業績を多く残しています。また、2012年4月から保険導入された「広範囲顎骨支持型装置および補綴」にも積極的に取り組んでおり、症例数は50症例以上になっています。現在、当科のインプラント治療は、指導医(1名)と専門医(2名)の指導の下、本学会会員が担当しています。

秋田県は、他の都道府県に比べて本学会の専門医や指導医が少ないのが現状であり、これからは、より多くの専門医を育成し、秋田県内に安全なインプラント治療を提供することが重要な責務であると考えています。



インプラント埋入
シミュレーション模型



顎骨再建
シミュレーション模型



医局員集合写真

《 研修施設紹介④ 》

名古屋大学医学部附属病院 歯科口腔外科

科長 日比英晴（名古屋大学医学部附属病院 歯科口腔外科 教授）

1. 沿革

当科は東京帝国大学医科大学歯科学教室の流れをくみ、大正6年に開設され100年以上の歴史があります。インプラントは昭和62年にスウェーデンから上田実前教授が臨床導入し、平成3年にはインプラント義歯として厚生省から承認された高度先進医療の実施機関になりました。インプラントと骨再生について国内外を先導し、それぞれの国際学会を平成8年、14年に主催し、そこには故ブローネマルク先生をはじめ海外の著名人が集いました。当時は広範な骨欠損に対して外科的再建と組み合わせた大掛かりな形態機能回復に注力しましたが、それを再生医療で置き換えて低侵襲化を目指した活動に転換してきています。この成果は多くの論文として発表されており、さらに海外の書籍にも収載されました。本学会では平成28年に認定研修施設になりました。

2. 特色

本学は指定国立大学、医学部附属病院は特定機能病院、臨床研究中核病院、国際医療施設評価認証機関であり、これらに診療科だけでなく大学院医学系研究科総合医学専攻頭頸部感覚器外科学講座としても参画しています。構成員は科長兼務の教授1、講師1、助教8、医員9、大学院生17、うち留学生7、2年次研修医8、研修医10であり、関連病院が24あります。

研修で重要と考えるのは視点であり、より高くより多くなるように心がけています。そこで研修医は1年次に歯科の標準的な内容に加えて麻酔科で1か月を、2年次に麻酔科でさらに6か月、救急科と集中治療部で3か月、口腔外科病棟で3か月をすごし、徹底的に全身管理を学び、医療安全の基礎を固めます。

そのうえで歯の単純欠損から悪性腫瘍や唇顎口蓋裂などによるものまで、どのような症例に対しても包括的に検討します。本学会をはじめ、日本口腔インプラント学会、日本口腔外科学会、日本補綴歯科学会、日本顎関節学会、日本口腔科学会、日本有病者歯科医療学会、日本顎変形症学会の研修施設であり、いずれも指導医である私が施設長をつとめ、多面的かつ横断的に、また専門的かつ統合的な研修ができるようにしています。もともと抜歯・インプラントありきのインプラント埋入職人でなく、真に歯

を守り口と全身の健康を考える歯科医師としての使命感を常にあらたにしています。

3. 展望

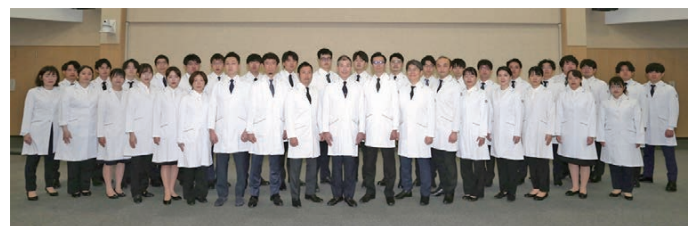
再生医療では骨髄由来間葉系細胞を用いた骨造成に100例以上の実績があります。これが評価され、先進医療「骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法」の全国で唯一の実施医療機関として厚生労働省から承認されていました。今は細胞を使わない再生医療を模索しています。大正に芽を出し、昭和で根を張り、平成で幹となった臨床、教育、研究活動が令和で花開くよう精進しています。



主催した国際学会



編集あるいは分担した書籍



診療科構成員

《 会員情報 》

会員数は2024年9月末日現在1,444名
(名誉会員11名含む)

賛助会員数は2024年9月末日現在で11社です。
詳細は以下に示します。

「賛助会員」一覧

AQB・ABIインプラント株式会社
オカダ医材株式会社
オリンパステルモ バイオマテリアル株式会社
クインテッセンス出版株式会社
ストローマン・ジャパン株式会社
株式会社デンタリード
デンツプライシロナ株式会社
日本ストライカー株式会社
ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
株式会社プラトンジャパン
株式会社モリタ

(五十音順)

《 事務局からのお願い 》

＜ 年会費納入に関して ＞

年会費は自動振替ご登録の方を除き、毎年下記のサイクルで請求書をお送りしています。

第1回目:1月下旬～2月下旬

第2回目:5月中旬～7月上旬

4月の新年度以降でないとは納入できないという方もいらっしゃるため、この時期にお送りしています。1回目で納入いただいている方の方に「再送」というかたちで送付しています。

第3回目:8月

1、2回目で納入いただいている方の方に「再々送」という形で送付しています。

※コンビニ決済もできるようになりました。ただ、コンビニ決済には納付期限がありますので、請求書が届いてから必ず期限内に納付してください。また、郵便振替もしくはコンビニ決済となりますので、重複してお支払いにならないようご注意ください。

※できるだけ自動振替の登録をお願いいたします。ご希望の場合は事務局のメール info@jamfi.net へご連絡ください。(件名を「自動振替」としてください。)

※このところ、勤務先や転居先の登録がされておらず「案内が届いていない」という方も見受けられますので転勤や転居された場合、必ず変更申請を提出ください。(ホームページより用紙をダウンロードし、メールでお送りく

ださい。あるいはFAXをください。)

※長期未納は会費規程に基づき退会扱いとなります。会費規程に下記付則がありますので、ご注意ください。

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 会費規程 (付則)

会費納入期限から1年を経過した時点で会費未納の場合は、事務局からの文書による通知を行う。その後1年間会費が納入されない場合には学会雑誌の発送を停止する。さらに通算3年納入が見られない場合は、定款第7条2項(3)に基づいて退会とする。

なお、再入会を希望する退会者に対しては、過去の未納分の決済を原則とし、これを理事会で審議後再入会を承認する。この規程は、平成28年12月4日から施行する。
※退会される場合は電話では承りません。台帳に残すためにメールもしくはFAXにてその旨ご連絡ください。特に様式はございません。

＜ メールアドレス登録のお願い ＞

当会では、メールニュースとしてタイムリーな情報やご案内を差し上げています。

年に数回発行していますが、現在受信されていない方は是非ご登録いただきますようお願いいたします。

E-mail : info@jamfi.net

(件名を「メールアドレス登録」としてください。)

＜ 事務局の業務についてのお願い ＞

当会事務局は少人数で運営されています。また、感染防止対策や夕方以降のWeb会議などのため在宅勤務や事務所滞在時間の短縮を取り入れております。不在でお電話いただいても対応できないなど、ご迷惑をおかけしますがご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。お問い合わせにつきましては電話ではお受けできません。e-mailにてお問合せください。

特に、専門医関連の問い合わせを電話でいただくことがあります。正確な回答を差し上げるため、e-mailでおこなっておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

＜ 専門医制度関連の電子保存化に関するお願い ＞

2025年度より、専門医制度委員会では申請書の電子申請と電子保存化に向けて作業を開始しております。まずは、申請時に印刷されたものと一緒にUSBメモリに保存したデータを提出いただくことになりました。また、過去の申請書につきましてはスキャンして(2014年以降)保存し、原本は希望者には返却する作業を開始しました。

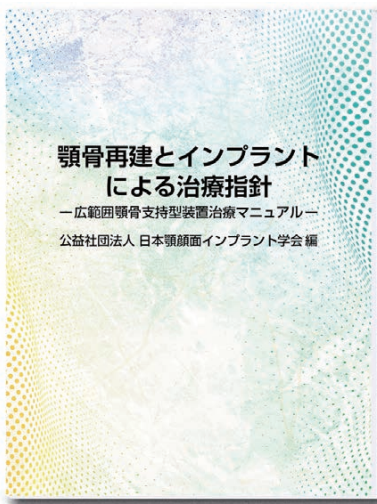
過去のデータのスキャンは膨大なボリュームのため、時間がかかりますがご理解とご協力をお願いいたします。なお、申請書の返却希望の有無は2025年9月中旬にホームページの「専門医制度」ページに掲載する予定です。対象者はそちらから手続きをお願いします。

《日本顎顔面インプラント学会編纂書籍会員特別価格にて頒布中!》

日本顎顔面インプラント学会編纂書籍として、診療ガイドライン作成委員会による「顎骨再建とインプラントによる治療指針 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」と、診療マニュアル作成委員会による「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」が発刊されています。

それぞれが、豊富な臨床資料に基づき解説された書籍となっております。極めて有用な書籍として、日本顎顔面インプラント学会の会員に向けて“会員特別価格”にて頒布していますので、ぜひこの機会にご検討ください。

顎骨再建とインプラントによる治療指針
— 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル —



本書の特徴は全編5章からなり、従来みられなかった顎骨再建方法について総論的に解説され、さらに再建顎骨に歯科インプラントを組み合わせた機能的再建、保険導入された広範囲顎骨支持型装置治療の治療方針について、豊富な臨床資料に基づいて解説されています。

- 【仕様】 A4版 260ページ カラー
- 【発売日】 2022年8月25日
- 【価格】 本体価格 10,000円(税込み11,000円)
- 【出版元】 (有)ゼニス出版

※会員特別価格：会員価格はおひとり1冊10,000円(税・送料込み)となります。
※右のQRコードより、詳細をご覧いただけます。



インプラントの専門医を取得するための
研修マニュアル



本書は、インプラントの専門医を目指す歯科医師のための研修カリキュラムに基づいて作られたマニュアル本です。カリキュラムでは、到達目標として、一般目標 (general instructional objective:GIO)と行動目標 (specific behavioral objectives:SBOs)が設定されています。到達目標が確認しやすいよう、各章のはじめにGIOとSBOsのチェックリストを掲載し、さらにSBOsの細目では、修得すべきGIOを態知技のマークで記載されています。

- 【仕様】 A4版 176ページ カラー
- 【発売日】 2023年12月1日
- 【価格】 本体価格 9,000円(税込み9,900円)
- 【出版元】 クインテッセンス出版(株)

※会員特別価格：会員価格はおひとり1冊9,000円(税・送料込み)となります。
※右のQRコードより、詳細をご覧いただけます。



編集後記

本号では、藤井先生より、学会運営の現状と今後の展望について重要なご提言がなされました。インプラント治療に携わる口腔外科専門医が、補綴治療まで視野に入れた治療計画を立てることの必要性は、あらためて周知されるべきことであり、今後の制度設計にも関わる大切な論点であると感じております。

私自身、以前所属していた医局には補綴の専門医・指導医が在籍しており、上部構造に関しては常に密に相談しながら治療を行っていました。もちろん、ときには相談を怠って叱られたこともありましたが、このような環境で研鑽を積めたことは非常に恵まれていたと感じています。現在も、広範囲顎骨支持型補綴など高い専門性を要する症例では、補綴の先生方にご相談できる環境にあります。

一方で、全国を見渡せば、このような環境を整えることが容易でない施設も少なくありません。現在進行中の「日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医制度」では、OJT方式による実践的な教育を通じて、インプラント治療全般の知識と技能を身につけた歯科医師の育成が目指されています。専門医および研修施設の認定基準も従来とは大きく異なり、これまで以上に補綴分野を含めた包括的な視点が求められるようになって考えられます。

最近では、歯科用CT、口腔内スキャナー、3Dシミュレーション、インプラントサージカルガイドなどの技術が普及し、PC上で治療計画を構築することが当たり前になりつつあります。術前から補綴専門医や技工士、紹介医とオンラインで相談できる環境も整いつつあり、こうしたデジタル技術の活用も、今後の専門医研修体制において重要な要素となるのではないのでしょうか。

さて、今年11月29日には「第29回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会」が、島根県松江市にて開催されます。出雲大社の神在祭と重なる時期でもあり、周辺の混雑は予想されますが、それもまた地方開催ならではの醍醐味といえるでしょう。思い返せば、ちょうど11年前の2014年11月29日にも同学会が出雲で開催され、出雲大社を訪れた思い出が今でも鮮明に残っています。近年は都市部での開催が多く、利便性は高いものの、地方開催にはその地ならではの魅力や温かさがあり、松江という歴史ある街での開催をとっても楽しみにしております。

個人的には、憧れの寝台列車「サンライズ出雲」に乗って訪れたいところですが、25周年を迎えた今もなお人気が高く、チケット入手は至難の業です。車両の老朽化と後継車両の計画がないことから、廃止の可能性も一部で囁かれており、残念に感じています。

最後に、今号に原稿をご寄稿くださった先生方に心より感謝申し上げます。お忙しい中、無理なお願いにもかかわらずご協力いただき、誠にありがとうございました。

(総務広報委員会 白田 慎)

【学会事務局】

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会事務局

〒108-0014 東京都港区芝5-29-22-805
TEL：03-3451-6916 FAX：03-5730-9866
E-mail：info@jamfi.net